

心理学専攻（博士後期課程）の3つのポリシー

【教育の理念】

人文科学研究科心理学専攻は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則り、人間に関わる人文諸学の智に基づき、高度な専門知識を用いて人間の本質の理解および社会や文化の諸問題解決のために、心理学界のリーダーとして取り組むに資する人材の育成を目的とする。

その理念・目的を達成するために、心理学分野において求められる様々な能力の修得と向上を目指し、きめ細かな指導を行い、独創的・自立的研究の実践が可能な人材の育成を目指すとともに、かつ専門教育指導者の涵養を目的とする。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

心理学専攻は、教育の理念に基づいて定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本専攻が定める所定の単位を修め、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。なお、博士論文の提出要件については別記定める。

（DP1）高度な専門分野の知識や技能の活用力

心理学分野に関する高度な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、心理学分野における先導者として、広く社会に向けて新たな知見や価値を創造・提案し、還元していくことができる。

（DP2）情報分析、課題設定および問題解決能力

自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的な研究遂行と研究結果の蓄積・収れんを行うことができる。また、伝統的な研究技法だけでなく、最先端のツールや手法を駆使し、専門情報を収集し、それらの分析によって、今までにない知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。

（DP3）コミュニケーション能力

学術論文執筆や学会発表などを通じて、自らの独創的な研究結果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

心理学専攻博士後期課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成するために、心理学専攻の学問分野・領域の特性に応じた3年の教育課程を提供する。

また、課程を通じた研究の成果として提出される、博士論文の審査基準を明確にし、博士論文の評価結果を基に、学位を授与された者がさらなる研究の向上・進展を図ることができるように指導を行う。同時に、リサーチワークのあり方や社会的責任について改善を図る。

さらに、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

心理学専攻博士後期課程の教育課程は、「講義」と「研究指導」からなる。「講義」と「研究指導」は独立したものではなく、有機的な連関をもって展開される。院生が最先端の研究に従事できるような環境を整備し、そしてその研究成果を積極的に学会に発表し、さらに学術論文として公表できるよう支援体制を整えている。

2. 教育方法

1) 講義科目は、豊かな専門知識と研究能力のさらなる向上を目的として、先行研究の批判的検討、文献講読、実験指導、データ収集指導、論文作成等に関わる教授と指導を行う。

2) 研究指導科目は、専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。

3. 評価

心理学専攻博士後期課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、学修成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1～3	◎	○		心理学分野の高度な知識および情報収集・分析などの研究活動上必要な研究手段・手法についてさらに深化させる。
研究指導	—	1～3	◎	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、学術論文の作成および学会発表等を通じて、最終的に博士論文にまとめる。
博士論文	—	—	◎	◎	◎	研究の集大成として、自ら設定した研究テーマに関し、独創的な観点から、新たな知見を示す論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

心理学専攻博士後期課程は、心理学領域に関する専門的知識や研究技術を身につけた学生のうち、駒澤大学大学院に入学した後も主体的に専門知識を深め、研究活動を行う明確な目的意識と熱意を持った入学者を求める。また、入学希望者に対しては、広い視野と、精深な学識を授け、先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を社会に発信する意欲を持った人材の育成を行う。本専攻の教育の理念を理解した上で出願することが望まれる。特に、心理学に関する専門的知識と専門分野における研究遂行能力が一定のレベルに達しており、かつ明確な問題意識をもって自立的に粘り強く、独創的な研究を続ける力量を備えた人材を受け入れる。さらに国内だけではなく、国際的な視点をもって研究を遂行できる人材を望む。

こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、各専攻の特性に応じた、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 心理学分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 心理学専攻で継続する研究の成果を専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 社会の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって独創的な論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの研究業績を適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類	○	◎	◎		修士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験と外国語試験の 2 科目で実施される。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎		○	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	実施していない					